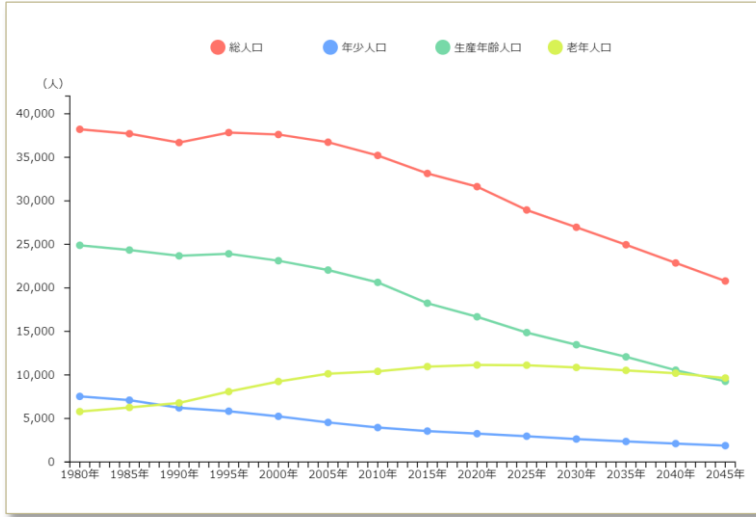


人口



* 人口マップ→人口構成→人口推移

年齢別人口推移（2020年）

2020年の人口は 31,629人。25年前の 37,841人から大きく減少している。将来人口をみると、今後も減少が続く見込みである。年齢別に今後の傾向をみると、年少人口と生産年齢人口は**減少**傾向、老年人口は**2025年まで増加後、横ばい**に転じることが予想されている。

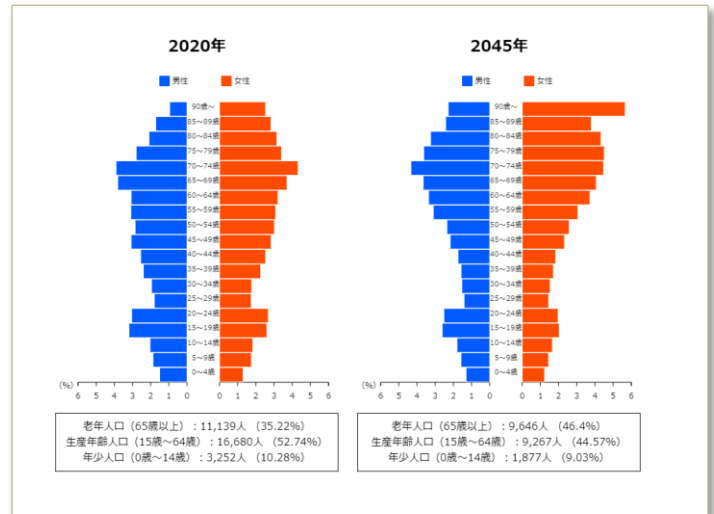
※ 年少人口は15歳未満、生産年齢人口は15～64歳
老年人口は65歳以上をさす

出典：総務省「国勢調査」、厚労省「人口動態調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

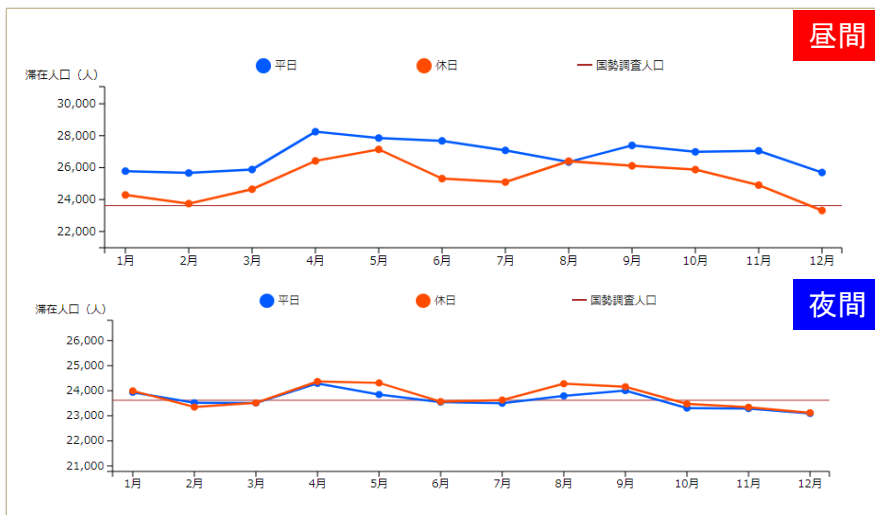
人口ピラミッド（2020年）

現在と将来の年齢別人口構成を示したグラフである。老年人口の割合をみると、2020年の**35.22%**から**2045年には46.4%**まで上昇する。特に女性の老年人口の割合が上昇する。一方、生産年齢人口は**2020年の52.74%**から**2045年には44.57%**まで低下する見込みである。

出典：総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」



* 人口マップ→人口構成→人口ピラミッド



* まちづくりマップ→滞在人口率→グラフ表示

滞在人口（2022年）

携帯電話の位置情報を元に、市内に滞在している人の数を毎月示したグラフである。

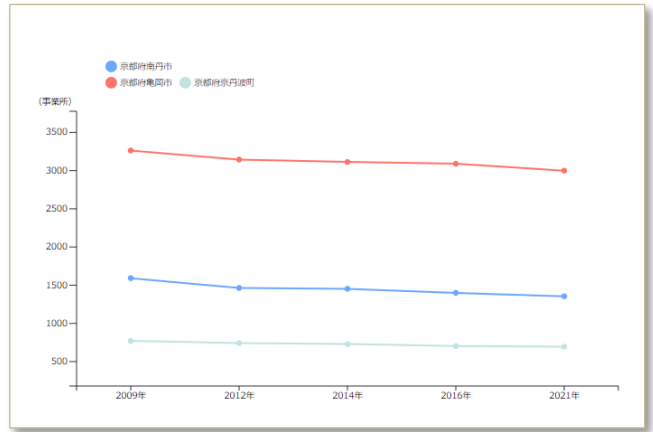
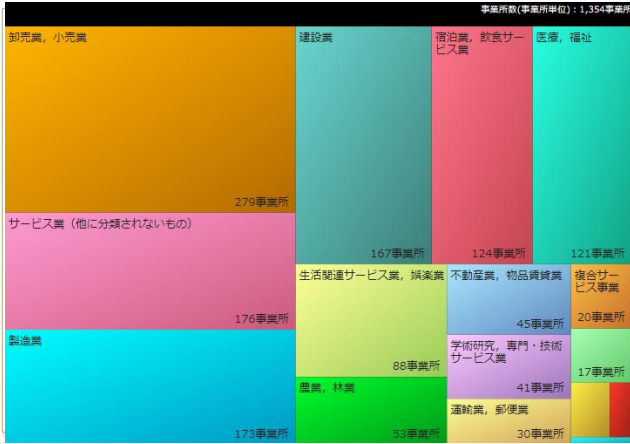
夜間は休日、平日ともに24,000人前後、昼間は休日、平日共に夜間を上回り、多い月では夜間より3,000人以上多く、休日は春と夏休み期間に入込客数が増えていることが読み取れる。

※ 昼間は14時、夜間は20時のデータである

出典：株式会社NTTドコモ・株式会社ドコモ・インサイトマーケティング「モバイル空間統計®」、総務省「国勢調査」

産業構造

対象地域：南丹市
比較地域：亀岡市、京丹波町

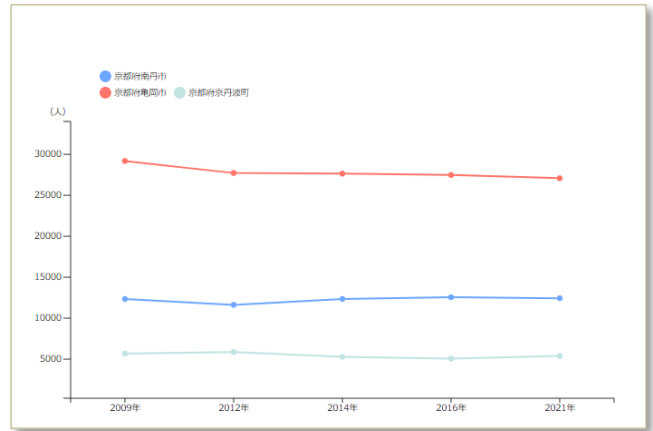
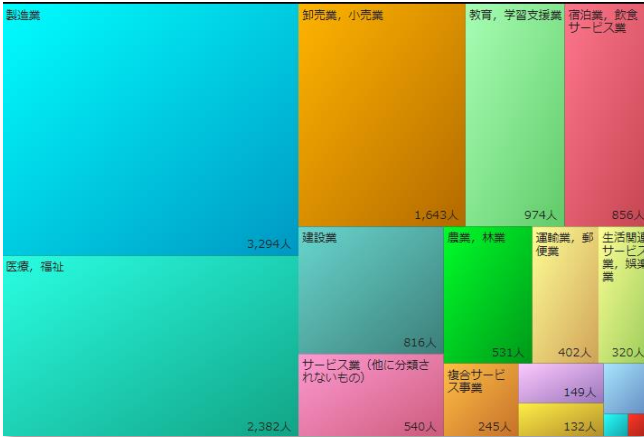


* 産業構造マップ→全産業→全産業の構造(事業所数)
事業所数(大分類)(2021年)

* 産業構造マップ→全産業→事業所数→グラフ表示
事業所数の推移(2021年)

業種ごとの事業所数を面の大きさを示したグラフである。最も多いのは「卸売業・小売業」で279事業所である。出典：総務省「経済センサス基礎調査」再編加工、総務省・経済産業省「経済センサス活動調査」再編加工

2021年の事業所数は1,354事業所である。12年前の2009年より238事業所減少している。周辺地域の推移も概ね同様の傾向である。

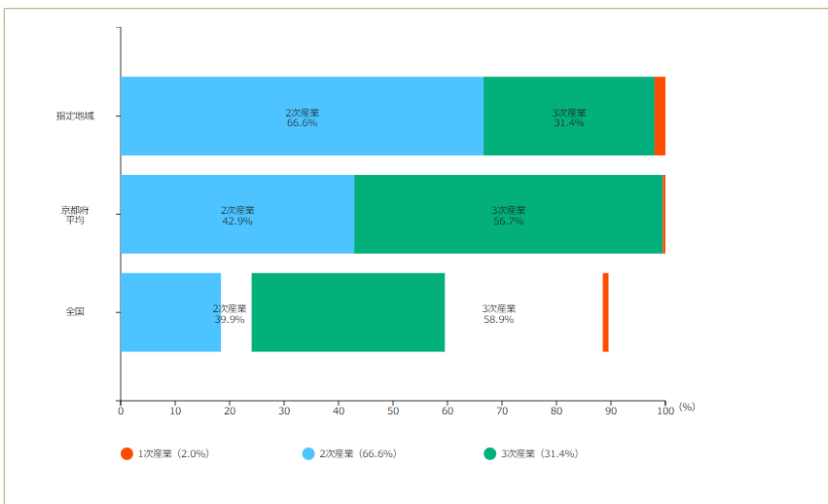


* 産業構造マップ→全産業→全産業の構造(従業者数)
従業者数(事業所単位)(2021年)

* 産業構造マップ→全産業→従業者数(事業所単位)
従業者数の推移(2021年) →グラフ表示

業種ごとの従業者数を面の大きさを示したグラフである。最も多いのは「製造業」で3,294人である。出典：総務省「経済センサス基礎調査」再編加工、総務省・経済産業省「経済センサス活動調査」再編加工

2021年の従業者数は12,436人である。12年前の2009年と比較して微増している。一方、亀岡市は約2,000人減少している。



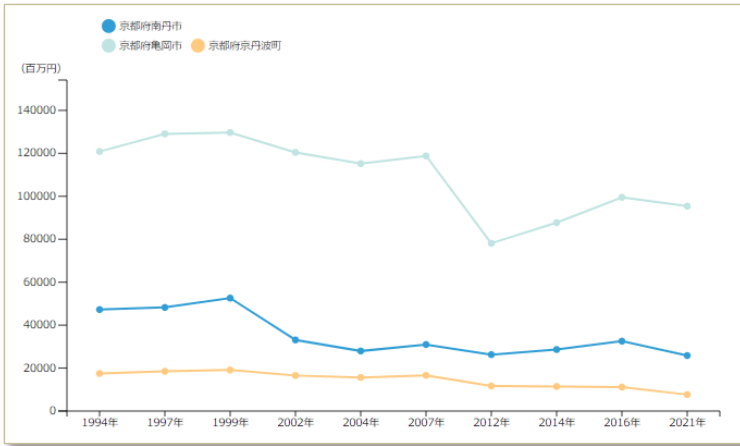
地域内産業の構成割合 (生産額・総額)(2018年)

産業の構成割合を府および全国と比較したグラフである。全国と京都府全体との比較で、第2次産業の割合が高いのが特徴であり、食料品製造業が最も多い。

出典：環境省「地域産業連関表」、「地域経済計算」(株式会社価値総合研究所(日本政策投資銀行グループ)受託作成)

* 地域経済循環マップ→生産分析
→地域内産業の構成を見る
→構成割合をグラフで見る

小売業・卸売業



年間商品販売額の推移 (2021年)

小売業・卸売業の商品販売額の推移を示したグラフである。

南丹市の販売額は25,839億円。2016年と比べると約6,700億減である。

同じ期間で他地域をみると、亀岡市、京丹波町ともに減少傾向となっている。

出典：経済産業省「商業統計調査」
総務省・経済産業省「経済センサス活動調査」

* 産業構造マップ→小売・卸売業
→年間商品販売額→(販売額) グラフ表示

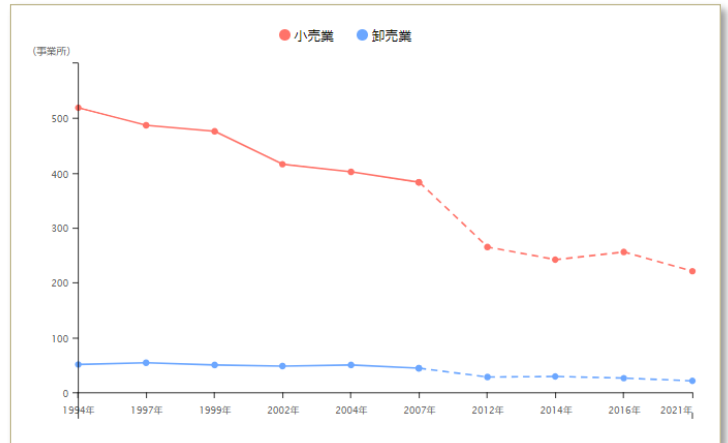
事業所数 (小売業・卸売業) の推移 (2021年)

小売業・卸売業の事業所数の推移を示したグラフである。

2021年の事業所数は、小売業221事業所、卸売業21事業所。2016年と比べると小売業、卸売業ともに横ばいである。

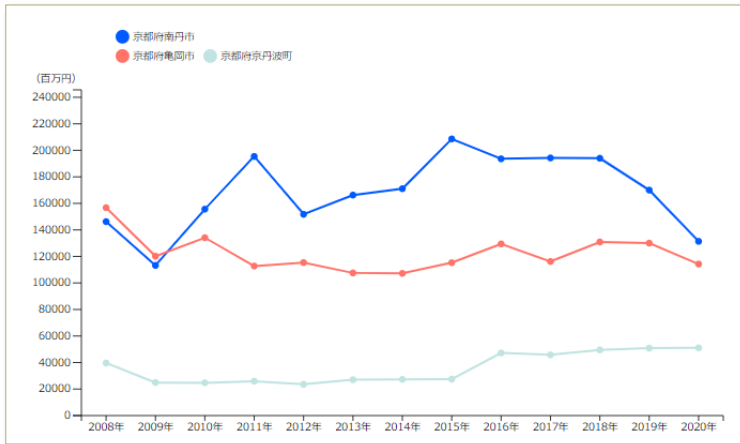
出典：経済産業省「商業統計調査」
総務省・経済産業省「経済センサス活動調査」

* 産業構造マップ→小売・卸売業→商業の構造
→(実数で表示) 推移を見る



※ グラフの破線は集計方法等の変更により単純な年間比較を行えない。

製造業



製造品出荷額等の推移 (2020年)

製造業の製造品出荷額等の推移を示したグラフである。

2020年の南丹市の出荷額は131,382億円と、亀岡市より多い数値であるものの、過去推移では減少傾向となっている。

出典：経済産業省「工業統計調査」、総務省・経済産業省「経済センサス活動調査」

* 産業構造マップ→製造業→製造品出荷額等
→グラフ表示

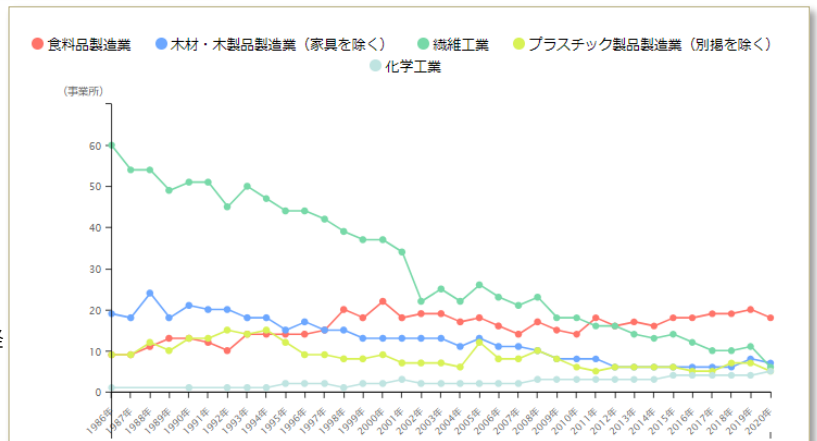
事業所数 (主要製造業) の推移

主要製造業の事業所数の推移を示したグラフである。

南丹市では「繊維工業製造業」が圧倒的に多かったが、1986年以降急激に減少し、2011年を境に「食品製造業」が最も多い製造業種となっている。

出典：経済産業省「工業統計調査」再編加工、総務省・経済産業省「経済センサス活動調査」再編加工、総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」

• 産業構造マップ→製造業→製造業の構造
→(実数で表示) 推移を見る



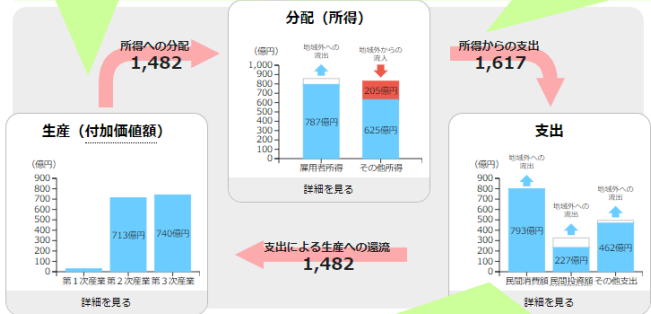
地域経済循環

地域経済循環図 (2018年)

地域内の活動を通じて生産された付加価値は、労働者や企業の所得として分配され、消費や投資として支出されて再び地域内に還流する。この流れを示したものが地域循環図である。

南丹市は1,482億円の付加価値を生み出している。

付加価値は市外との流出入により差引1,617億円が市内に分配されて支出に回っている。

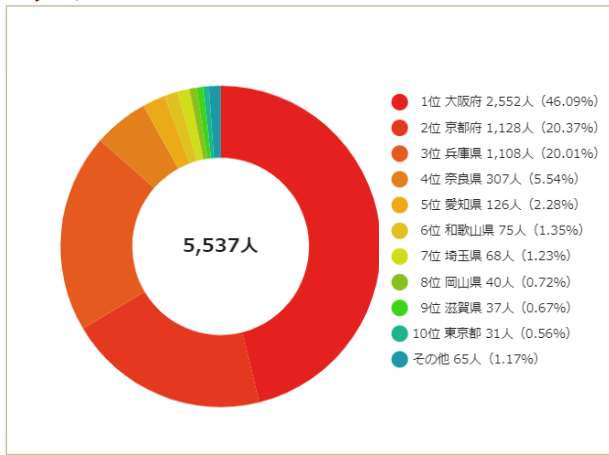


市内へ支出された金額は1,482億円。地域内の所得1,617億円より少なく、稼ぎが市外へ流出している。

出典：環境省「地域産業連関表」、「地域経済計算」(株式会社価値総合研究所(日本政策投資銀行グループ)受託作成)

* 地域経済循環マップ→地域経済循環図

観光



出典：観光予報プラットフォーム推進協議会「観光予報プラットフォーム」

* 観光マップ→From-to分析→居住都道府県別 From-to分析 (宿泊者) (2021年)

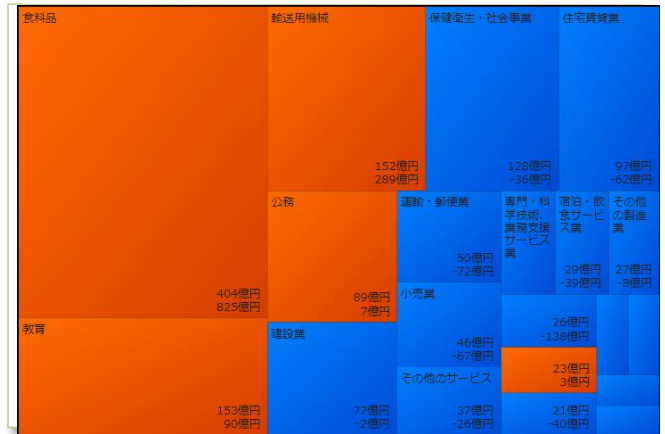
居住都道府県別の延べ宿泊者数(日本人)の構成割合を示したグラフである。大阪府が46.09%と最も多く、京都府が20.37%と続く。

この経済分析は「RESAS」を活用しています

RESAS(地域経済分析システム)は、地域経済に関する様々なデータをグラフでわかりやすく「見える化(可視化)」するシステムです。地域の実情をビジュアルに把握・分析できます。誰でも無料で使えます。

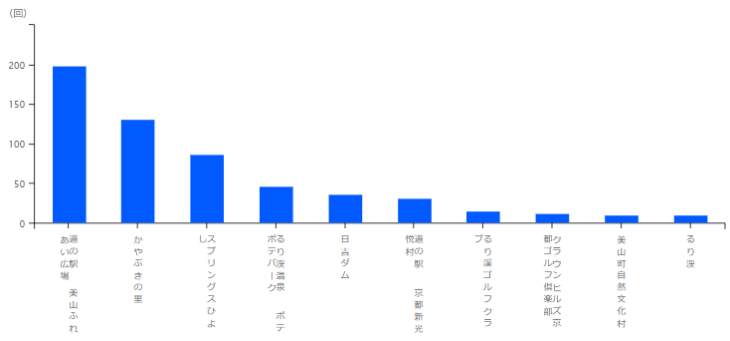
生産分析 (2018年)

左図の生産(付加価値)の内訳を面の大きさで示したグラフである。付加価値が高いのは「食品品業」「教育業」である。グラフの色は、赤色は地域外から稼いでいる産業(移輸出超過)、青色は地域外から調達している産業(移輸入超過)を表している。



出典：環境省「地域産業連関表」、「地域経済計算」(株式会社価値総合研究所(日本政策投資銀行グループ)受託作成)

* 地域経済循環マップ→生産分析(付加価値額)→地域内産業の構成を見る→移輸出入カラー



出典：株式会社ナビタイムジャパン「経路検索条件データ」

* 観光マップ→目的地分析→目的地検索ランキング

目的地検索ランキング (2023年・休日・自動車)

インターネットで経路検索された回数が多い場所をランキング形式で示したグラフである。「道の駅美山ふれあい広場」「かやぶきの里」「スプリングスひよし」の検索回数が多く、来訪者の関心が高いことがわかる。

作成：南丹市商工会

〒629-0141 京都府南丹市八木町八木 東久保28-1
TEL : 0771-42-5380 FAX : 0771-42-5734
URL : <http://nantan.kyoto-fsci.or.jp/>